

令和 6 年 6 月 13 日現在

機関番号：32641

研究種目：新学術領域研究(研究領域提案型)

研究期間：2017～2021

課題番号：17H06343

研究課題名(和文)顔と身体表現の文化差の形成過程

研究課題名(英文)Early development of cultural differences in face and body

研究代表者

山口 真美(Yamaguchi, Masami)

中央大学・文学部・教授

研究者番号：50282257

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 78,100,000円

研究成果の概要(和文)：多様な人々が集う現代社会において、顔と身体表現の文化的な相違や個々のバリエーションを知ることは、異文化理解の観点から重要である。特に意識の外に追いやられた文化的相違を知ることには、異文化理解においては必須とされる。本研究では、こうした文化的差異や個人差の成り立ちを検討することを目的とした。特に、意識の外に追いやられた潜在的な過程の文化的差異を知るため、顔と身体表現の“顕在処理過程”と“潜在処理過程”の発達から検討した。さらに、顔認知が成立する乳幼児を対象に、顔認知における潜在的学習と顕在的学習という2つの学習プロセスの結びつきと、その定型と非定型な発達についても検討した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

多様な顔と身体の発達とその受容に関する学術的成果をもとに、一般書並びにジュニア向け・乳児向けの顔絵本の発刊や、集英社インターナショナルや東京大学出版会UPでのコラム連載など積極的に発信した。2022年から2023年にかけてコロナ禍の日本のマスクについてThe Economist、The Wall Street Journal、中国のフェニックステレビ、AERA、読売新聞、朝日新聞などでコメントを発表し、NHK「視点・論点」で、マスク着用と子どもの社会性の発達に言及するなど社会的貢献に尽力した。

研究成果の概要(英文)：In today's diverse societies, knowledge of cultural differences and individual variations in "face & body" is important for intercultural understanding. In particular, understanding unconscious cultural differences is considered essential for intercultural understanding. The present study aimed to investigate the origins of these cultural and individual differences. In order to understand the implicit process of cultural differences, our study examined the early development of the 'explicit process' and the 'implicit process' of face and body representations. The study also examined typical and atypical development in implicit and explicit face recognition.

These experiments were carried out on infants aged between 3 and 8 months.

研究分野：実験系心理学

キーワード：実験心理学 文化人類学 顔学 哲学

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本計画班では、顔と身体表現の文化差と個人差の形成過程・学習過程を検討する。顔や身体表現にはさまざまな個性があり、文化差が存在する。こうした個人差や文化差がどのように生まれてきたかを考える中で、顔や身体表現処理の“顕在処理過程”と“潜在処理過程”から検討することは重要である。近年の認知科学と神経科学では、「他者を正しく認識できない」症例があることが知られているが、“顕在処理過程”と“潜在処理過程”の過程の解離により、それぞれの病理が異なることが報告されている (Gobbini & Haxby, 2007)。たとえば、「顔から知り合いと認識できても、知り合いである実感がわからない」カブクラ (カブクラ) 症候群では、顕在処理は正常で潜在処理だけに問題があり、「顔から知り合いを認識することができない」相貌失認では、顕在処理に問題があるものの潜在処理過程は正常に働くという。顔や身体表現処理の“顕在処理過程”と“潜在処理過程”から、その個人差や文化差を掘り下げることにより、心と身体の異文化をよりよく理解する試みを行いたい。

顔や身体表現をどのように受け取るかということは、その人が持つ社会関係や社会構造を反映することにもつながる。近年の認知科学研究から西欧文化圏と東アジア文化圏には明確な認知様式の違いがあることが知られ、さらに顔を見る際の潜在処理である視線を解析した研究からも明らかな認知的な文化差があることが知られている。申請者はその発達過程を明らかにした研究を発表した。また、こうした認知様式の差異の背景には、それぞれの文化の社会構造や環境要因が反映されることも知られる (Nelson, 2015)。社会生活を円滑に送る上では顔を認識することは不可欠であり、近年の神経科学の研究から、人との付き合いやコミュニケーションがうまくいかない様々な問題を持つ人々の心のメカニズムを検討すると、それぞれの問題の発端に、目の前の人の「顔を正しく認識できない」ことが多いことも知られている。様々な社会性障害を持つ人々の心のメカニズムから示唆される“顕在過程”と“潜在過程”を検討することにより、顔や身体表現の個人差と文化差を読み解く視点も取り入れたい。本研究では、顔や身体表現の文化差や個人差を作り上げる環境要因や経験・学習要因を解明する。

2. 研究の目的

多様な人々が集う現代社会において、顔と身体表現の文化的な相違や個々のバリエーションを知ることは、異文化理解の観点から重要である。特に意識の外に追いやられた文化的相違を知ることが、異文化理解においては必須とされる。本研究では、こうした文化的差異や個人差の成り立ちを検討する。特に、意識の外に追いやられた潜在的な過程の文化的差異を知るため、顔と身体表現の“顕在処理過程”と“潜在処理過程”の発達から検討する。本計画班では、顔認知が成立する乳幼児を対象に、顔認知における潜在的学習と顕在的学習という2つの学習プロセスの結びつきと、その定型と非定型な発達についても検討する。認知科学・認知脳神経科学による新たな視点である潜在学習と潜在処理の視点を加えることによって、顔認知の学習過程とその問題、そこからさらには個人差や文化差の成立過程をより深く明らかにすることができる。たとえば魅力といった感性判断では潜在的な学習効果が強いことも知られ、潜在的な処理が日常の意思決定、たとえば異性の選択や政治家の選択といった、社会を構成するための判断を左右する力を持つ可能性がある。こうした学習過程をその発達から明らかにする事より、それぞれの文化や社会・家族関係の構築を明らかにすることが可能となる。個人差と文化差の形成過程を調べるための乳幼児の実験では、視覚的選好法で顕在処理を、眼球運動を用いて潜在処理を検討し、さらに申請者の研究室の特化した技術である近赤外分光法 (fNIRS) を用いて文化差の萌芽の神経基盤を解明する。東アジアの視点から文化差についての考察を国際的発信と、アウトリーチにより成果を国内に浸透させる。

3. 研究の方法

本研究では、複数の手法を用いて乳児における顔と身体認知処理について検討した。対象者は生後3~8ヶ月の乳児で、行動実験と生理的指標・脳活動を計測する実験を行った。神経科学的方法では、顔と身体情報の処理の独立性を乳児で検討するため近赤外分光法 (functional

near-infrared spectroscopy; fNIRS) を用いた実験を行った。顔と身体情報は、紡錘状回 (Fusiform gyrus; FG)、上側頭溝 (Superior temporal sulcus; STS)、後頭領域 (Occipital region) のそれぞれで、機能的に分化している (Yovel & O' Toole, 2016)。その発達を検討し文化間の処理の違いを調べるため、近赤外分光法 (functional near-infrared spectroscopy; fNIRS) により乳児の後側頭領域における顔反応領域と身体反応領域の特定を試みる。実験では接近する女性の「顔だけが見える条件 (body blur)」と「身体だけが見える条件 (face blur)」を提示し、上側頭溝 (STS) を中心とした、両後側頭領域のヘモグロビンの相対的变化を近赤外分光法 (日立メディカル製 ETG-4000、各 12 チャンネル計 24 チャンネル計測) を用いて計測し、乳児の顔と身体の反応領域の存在を検討した。

4. 研究成果

主な成果としては、2021 年 10 月ボストンで開催された fNIRS 学会で乳児を対象とした fNIRS (近赤外分光法) を用いた実験に関する招待講演を行い、顔に関する一般書「損する顔 得する顔」(朝日新聞出版 2018)、児童青年期を対象に心身の悩みを解決するための身体性の最新の心理学の科学的成果を示した一般書「こころと身体の心理学」(岩波ジュニア新書 2020)、赤ちゃん向けの絵本「かおかおばあ」(角川書房 2019) などの出版を行った。国内の学会では、日本分子イメージング学会、日本小児科学会、基礎心理学会で、顔認知やコロナ禍のマスク着用の顔認知の発達への影響についてのシンポジウムを行った。さらに集英社インターナショナルや東京大学出版会 UP でのコラム連載など積極的に発信し、2022 年から 2023 年にかけてコロナ禍の日本のマスクについて The Economist、The Wall Street Journal、中国のフェニックステレビ、AERA、読売新聞、朝日新聞などでコメントを発表し、NHK「視点・論点」で、マスク着用と子どもの社会性の発達に言及するなど社会的貢献に尽力した。次に学術的な主な成果を以下に抜粋する。

"A longitudinal study of infant view-invariant face processing during the first 3-8 months of life." (NeuroImage) では生後 3 か月から 8 か月までの顔処理に関わる側頭部位の脳活動の縦断計測を、近赤外分光法 (fNIRS) を用いて行い、正面顔認知と横顔認知で発達過程が異なり、その発達には個人差があること、生後 8 か月に向けて個人差が小さくなることを明らかにすることができた。この成果は、顔認知の個人差をその発達初期から明らかにする点において重要な成果であり、個人差の発達とその起源を探る極めて重要な研究である。2019 年度 22,282 のダウンロード数で NeuroImage 誌 No.1 の高い評価を得ている。

"Infants prefer a trustworthy person: An early sign of social cognition in infants." (PLoS ONE) は顔の印象形成の発達の変化を検討する論文で、これまで欧米文化圏の乳児で明らかにされていた印象形成が、日本人乳児でも同様にみられることを確認するため生後 6~8 か月の日本人乳児を対象とした研究である。顔から得られる第一印象の重要な 2 大因子である「信頼感」と「支配性」の獲得過程について検討し、生後 6~8 か月の乳児で、支配性が高い顔同士のペアでは信頼感の高い顔をより長く注視するという結果が得られ、成人と似た顔の印象評価が既に獲得されている可能性を発表した。この成果もプレスリリースを行い、毎日新聞 (2018 年 9 月 7 日) に紹介されている。

"Perceptual narrowing towards adult faces is a cross-cultural phenomenon in infancy: A behavioral and near-infrared spectroscopy study with Japanese infants." (Developmental Science) イタリアとの共同研究では、近赤外分光法 (fNIRS) を用いて、本申請の核となる「知覚的狭小化」、すなわち育てられた環境への適応過程の脳内機構を調べる実験成果を発表した。

"Cortical processing of dynamic bodies in the superior occipito-temporal regions of the infants' brain: Difference from dynamic faces and inversion effect." (NeuroImage) は、fNIRS (近赤外分光法) を用いて乳児の身体反応領域の活動を解明することに成功した。

"Emotional response in infants' pupil contagion." (Journal of Experimental Child Psychology) では、顔に対する情動的な瞳孔反応が乳児でも見られること示した一連の論文を発表し、乳児の瞳孔反応が顔という文脈特有の現象で引き起こること、皮膚電位反応と同期計測することによりこの瞳孔反応が情動的な反応であることを示した実験である。

"Cortical signatures of visual body representation develop in human infancy." (Scientific Reports) ではバーミンガム大学と共同で乳児の脳波計測を行った乳児の身体表象の研究であり、その理論的考察も発表した。

"Rapid identification of the face in infants." (Journal of Experimental Child Psychology) では顔をめぐり視覚注意を調べるため高速逐次視覚提示課題を用い、7-8ヶ月児では短時間(100ms)でも複数の風景画像の中から個人の顔を検出し、かつ人物同定ができることが判明した。

"Infant brain activity in response to yawning using near-infrared spectroscopy." (Scientific Reports) では生後5-8ヶ月の乳児が、あくびを表情のような顔の動きの一つとして知覚していることを、fNIRSを用いて検討し、顔に反応する側頭領域があくびに対しても活動することが示された。あくびの伝染現象の発達に先立ち知覚機能は発達していることが示唆された。

"The other-race effect on the McGurk effect in infancy." (Attention, Perception, & Psychophysics) では、マガーグ効果と呼ばれる顔と音声不一致な状況で異なる音声が聞こえる現象の異文化比較発達を検討する実験を計画し、fNIRS(近赤外分光法)を用いて乳児の脳活動の賦活を検討した。日本人の乳児に日本人の女性と欧米人の女性の顔で同じ錯視を提示したところマガーグ効果の見られない映像では生後7ヶ月の乳児は左右両側頭が活動するもののマガーグ効果の刺激では言語にかかわる左側頭のみが活動し、この効果は白人種(日本人の女性の顔)でのみ見られることが明らかとなった。言語獲得に際し同じ文化で育つ顔を見ることの重要性が明らかになった研究成果である。

(主な成果: 抜粋)

Tsuji, Y., Kanazawa, S., & Yamaguchi, M. K. (2024). Emotional response in infants' pupil contagion. *Journal of Experimental Child Psychology*, 238, 105801.

Yang, J., Ganea, N., Kanazawa, S., Yamaguchi, M. K., Bhattacharya, J., & Bremner, A. J. (2023). Cortical signatures of visual body representation develop in human infancy. *Scientific Reports*, 13, 14696.

Kobayashi, M., Kanazawa, S., & Yamaguchi, M. K. (2023). The role of scenic context on upright face preference in infancy. *PLoS ONE*, 18(7): e0288253.

Nakashima, Y., Kanazawa, S., & Yamaguchi, M. K. (2023). Recognition of humans from biological motion in infants. *Attention, Perception, & Psychophysics*, 85, 2567-2576.

Tsurumi, S., Kanazawa, S., Yamaguchi, M. K., & Kawahara, J. (2022). Infants' anticipatory eye movements: Feature-based attention guides infants' visual attention. *Experimental Brain Research*, 240, 2277-2284.

Tsurumi, S., Kanazawa, S., Yamaguchi, M. K., & Kawahara, J. (2022). Development of upper visual field bias for faces in infants. *Developmental Science*. e13262

Tsuji, Y., Kanazawa, S., & Yamaguchi, M. K. (2022). Infants' hemodynamic modulation in the temporal region. *Frontiers in Human Neuroscience*, 16, 821539.

Yamanaka, N., Kanazawa, S., & Yamaguchi, M. K. (2022). Infants' brain activity to cartoon face using functional near-infrared spectroscopy. *PLoS ONE*, 17, e0262679.

Tsuji, Y., Kanazawa, S., & Yamaguchi, M. K. (2022). Face-specific pupil contagion in infants. *Frontiers in Psychology*, 12, 789618.

Kobayashi, M., Kanazawa, S., Yamaguchi, M. K., & O'Toole, A. J. (2021). Cortical processing of dynamic bodies in the superior occipito-temporal regions of the infants' brain: Difference from dynamic faces and inversion effect. *NeuroImage*, 244, 118598.

Yang, J., Yamaguchi, M. K., & Bremner, A. J. (2021). Development of body representations in human infancy. *Philosophy & cultural embodiment*, 1(1), 18-28. [link]

Ujiie, Y., Kanazawa, S., & Yamaguchi, M. K. (2021). The other-race effect on the McGurk effect in infancy. *Attention, Perception, & Psychophysics*, 83, 2924-2936.

Nakashima, Y., Kanazawa, S., & Yamaguchi, M. K. (2021). Perception of invisible masked objects in early infancy. *Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America*, 118, e2103040118.

Tsurumi, S., Kanazawa, S., Yamaguchi, M. K., & Kawahara, J. (2021). Attentional blink in preverbal infants. *Cognition*, 214, 104749.

Ujiie, Y., Kanazawa, S., & Yamaguchi, M. K. (2020) Development of the multisensory perception of water in infancy. *Journal of Vision*, 20:5, 1-7.

Ujiie, Y., Kanazawa, S., & Yamaguchi, M. K. (2020) The other-race-effect on audiovisual

speech integration in infants: A NIRS study. *Frontiers in Psychology*, 11, 971.

Kobayashi, M., Ikeda, T., Tokuda, T., Monden, Y., Nagashima, M., Mizushima, S. G., Inoue, T., Shimamura, K., Ujiie, Y., Arakawa, A., Kuroiwa, C., Ishijima, M., Kishimoto, Y., Kanazawa, S., Yamagata, T., Yamaguchi, M. K., Sakuta, R., & Dan, I. (2020). Acute administration of methylphenidate differentially affects cortical processing of emotional facial expressions in ADHD children as studied by functional near-infrared spectroscopy. *Neurophotonics*, 7(2), 025003. doi: 10.1117/1.NPh.7.2.025003. [link]

Kobayashi, M., Kakigi, R., Kanazawa, S., & Yamaguchi, M. K. (2020). Infants' recognition of their mothers' faces in facial drawings. *Developmental Psychobiology*, 62(8), 1011-1020.

Shimamura, K., Inoue, T., Ichikawa, H., Nakato, E., Sakuta, Y., Kanazawa, S., Yamaguchi, M. K., Kakigi, R., & Sakuta, R. (2019). Hemodynamic response to familiar faces in children with attention deficit hyperactivity disorder. *BioPsychoSocial Medicine*, 13, 30.

Tsurumi, S., Kanazawa, S., & Yamaguchi, M. K. (2019). Infant brain activity in response to yawning using near-infrared spectroscopy. *Scientific Reports*, 9, 10631.

Tsurumi, S., Kanazawa, S., Yamaguchi, M. K., & Kawahara, J. (2019). Rapid identification of the face in infants. *Journal of Experimental Child Psychology*. 186, 45-58.

Ichikawa, H., Nakato, E., Igarashi, Y., Okada, M., Kanazawa, S., Yamaguchi, M.K., & Kakigi, R. (2019). A longitudinal study of infant view-invariant face processing during the first 3-8 months of life. *Neuroimage*, 186, 817-824. doi: 10.1016/j.neuroimage.2018.11.031.

Sakuta, Y., Kanazawa, S., & Yamaguchi, M.K. (2018). Infants prefer a trustworthy person: An early sign of social cognition in infants. *PLoS ONE*, 13(9), e0203541.

Ujiie, Y., Yamashita, W., Fujisaki, W., Kanazawa, S., & Yamaguchi, M.K. (2018). Crossmodal association of auditory and visual material properties in infants. *Scientific Reports*, 8, 9301.

Kobayashi, M., Macchi Cassia, V., Kanazawa, S., Yamaguchi, M. K., & Kakigi, R. (2018). Perceptual narrowing towards adult faces is a cross-cultural phenomenon in infancy: A behavioral and near-infrared spectroscopy study with Japanese infants. *Developmental Science*, 21(1), e12498. doi: 10.1111/desc.12498

Ichikawa, H., Kanazawa, S., & Yamaguchi, M. K. (2017). Infants recognize the identity in a dynamic facial animation that simultaneously changes its identity and expression. *Visual Cognition*, 22, 156-165. doi:10.1080/13506285.2017.1399949

山口真美・河野哲也・床呂郁哉. (2022). コロナ時代の身体コミュニケーション, 勁草書房

山口真美. (2021). Q&A: どうして「顔」が気になるのか?, 河出書房新社(編), 見た目が気になる; 「からだ」の悩みを解きほぐす 26 のヒント, 河出書房新社. (分担執筆)

河野哲也・山口真美・金沢創・渡邊克巳・田中章浩・床呂郁哉・高橋康介(編) (2021). 顔身体学ハンドブック, 東京大学出版会.

山口真美. (2020). こころと身体の心理学, 岩波ジュニア新書.

山口真美・金沢創・ミスミヨシコ. (2019). かおかおばあ, 角川書店.

山口真美. (2018). 損する顔 得する顔, 朝日新聞出版.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計38件（うち査読付論文 38件／うち国際共著 3件／うちオープンアクセス 38件）

1. 著者名 Imatani Kaishi, Inoue Takeshi, Oto Yuji, Kitajima Tasuku, Otani Ryoko, F Nakashima Satoshi, Kanazawa So, K. Yamaguchi Masami, Sakuta Ryoichi, Matsubara Tomoyo	4. 巻 7
2. 論文標題 Generalized Anxiety Disorder and Depression Associated with Developmental Prosopagnosia: A Case Report	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Mental Health & Clinical Psychology	6. 最初と最後の頁 50 ~ 54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.29245/2578-2959/2023/3.1290	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Nakashima Yusuke, Kanazawa So, Yamaguchi Masami K.	4. 巻 242
2. 論文標題 Metacontrast masking is ineffective in the first 6?months of life	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Cognition	6. 最初と最後の頁 105666 ~ 105666
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.cognition.2023.105666	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Tsurumi Shuma, Kanazawa So, Yamaguchi Masami K.	4. 巻 290
2. 論文標題 Infants' visual perception without feature-binding	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Proceedings of the Royal Society B: Biological Sciences	6. 最初と最後の頁 20231234
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1098/rspb.2023.2134	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Tsuji Yuki, Kanazawa So, Yamaguchi Masami K.	4. 巻 238
2. 論文標題 Emotional response in babies' pupil contagion	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Journal of Experimental Child Psychology	6. 最初と最後の頁 105801
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jecp.2023.105801	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yang Jiale、Ganea Natasa、Kanazawa So、Yamaguchi Masami K.、Bhattacharya Joydeep、Brenner Andrew J.	4. 巻 13
2. 論文標題 Cortical signatures of visual body representation develop in human infancy	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 14696
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-023-41604-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kobayashi Megumi、Kanazawa So、Yamaguchi Masami K.	4. 巻 18
2. 論文標題 The role of scenic context on upright face preference in infancy	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0288253
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0288253	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakashima Yusuke、Kanazawa So、Yamaguchi Masami K.	4. 巻 85
2. 論文標題 Recognition of humans from biological motion in infants	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Attention, Perception, & Psychophysics	6. 最初と最後の頁 2567 ~ 2576
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3758/s13414-023-02675-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsurumi Shuma、Kanazawa So、Yamaguchi Masami K.、Kawahara Jun-ichiro	4. 巻 240
2. 論文標題 Infants' anticipatory eye movements: feature-based attention guides infants' visual attention	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Experimental Brain Research	6. 最初と最後の頁 2277 ~ 2284
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00221-022-06428-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsurumi Shuma、Kanazawa So、Yamaguchi Masami K.、Kawahara Jun ichiro	4. 巻 26
2. 論文標題 Development of upper visual field bias for faces in infants	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Developmental Science	6. 最初と最後の頁 e13262
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/desc.13262	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsuji Yuki、Kanazawa So、Yamaguchi Masami K.	4. 巻 16
2. 論文標題 Infants' Hemodynamic Modulation in the Temporal Region	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Frontiers in Human Neuroscience	6. 最初と最後の頁 821539
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnhum.2022.821539	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yamanaka Nanako、Kanazawa So、Yamaguchi Masami K.	4. 巻 17
2. 論文標題 Infants' brain activity to cartoon face using functional near-infrared spectroscopy	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0262679
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0262679	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsuji Yuki、Kanazawa So、Yamaguchi Masami K.	4. 巻 12
2. 論文標題 Face-Specific Pupil Contagion in Infants	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 789618
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2021.789618	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kobayashi Megumi, Kanazawa So, Yamaguchi Masami K., O'Toole Alice J.	4. 巻 244
2. 論文標題 Cortical processing of dynamic bodies in the superior occipito-temporal regions of the infants' brain: Difference from dynamic faces and inversion effect	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 NeuroImage	6. 最初と最後の頁 118598
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.neuroimage.2021.118598	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Yang, J., Yamaguchi, M. K., & Bremner, A. J.	4. 巻 1(1)
2. 論文標題 Development of body representations in human infancy.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Philosophy & cultural embodiment	6. 最初と最後の頁 18-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Ujiie Yuta, Kanazawa So, Yamaguchi Masami K.	4. 巻 83
2. 論文標題 The other-race effect on the McGurk effect in infancy	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Attention, Perception, & Psychophysics	6. 最初と最後の頁 2924 ~ 2936
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3758/s13414-021-02342-w	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakashima Yusuke, Kanazawa So, Yamaguchi Masami K.	4. 巻 118
2. 論文標題 Perception of invisible masked objects in early infancy	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Proceedings of the National Academy of Sciences	6. 最初と最後の頁 e2103040118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1073/pnas.2103040118	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsurumi Shuma, Kanazawa So, Yamaguchi Masami K., Kawahara Jun-ichiro	4. 巻 214
2. 論文標題 Attentional blink in preverbal infants	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Cognition	6. 最初と最後の頁 104749
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.cognition.2021.104749	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yang, J., Kanazawa, S., Yamaguchi, M. K.	4. 巻 10
2. 論文標題 The development of binocular suppression in infants.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 3389
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ujiie Yuta, Kanazawa So, Yamaguchi Masami K.	4. 巻 11
2. 論文標題 The Other-Race-Effect on Audiovisual Speech Integration in Infants: A NIRS Study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 971
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2020.00971	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ujiie Yuta, Kanazawa So, Yamaguchi Masami K.	4. 巻 20
2. 論文標題 Development of the multisensory perception of water in infancy	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Vision	6. 最初と最後の頁 5~5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1167/jov.20.8.5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kobayashi, M., Ikeda, T., Tokuda, T., Monden, Y., Nagashima, M., Mizushima, S. G., Inoue, T., Shimamura, K., Ujiie, Y., Arakawa, A., Kuroiwa, C., Ishijima, M., Kishimoto, Y., Kanazawa, S., Yamagata, T., Yamaguchi, M. K., Sakuta, R., Dan, I.	4. 巻 7(2)
2. 論文標題 Acute administration of methylphenidate differentially affects cortical processing of emotional facial expressions in ADHD children as studied by functional near-infrared spectroscopy.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Neurophotonics	6. 最初と最後の頁 25003
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1117/1.NPh.7.2.025003.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kobayashi Megumi, Kakigi Ryusuke, Kanazawa So, Yamaguchi Masami K.	4. 巻 62
2. 論文標題 Infants' recognition of their mothers' faces in facial drawings	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Developmental Psychobiology	6. 最初と最後の頁 1011 ~ 1020
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/dev.21972	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shimamura, K., Inoue, T., Ichikawa, H., Nakato, E., Sakuta, Y., Kanazawa, S., Yamaguchi, M. K., Kakigi, R., & Sakuta, R.	4. 巻 13
2. 論文標題 Hemodynamic response to familiar faces in children with attention deficit hyperactivity disorder	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 BioPsychoSocial Medicine	6. 最初と最後の頁 30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s13030-019-0172-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakashima, Y., Yamaguchi, M. K., & Kanazawa, S.	4. 巻 29
2. 論文標題 Development of center-surround suppression in infant motion processing.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Current Biology	6. 最初と最後の頁 3059-3064
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.cub.2019.07.044	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yang, J., Asano, M., Kanazawa, S., Yamaguchi, M. K. & Imai, M.	4. 巻 9
2. 論文標題 Sound symbolism processing is lateralized to the right temporal region in the prelinguistic infant brain.,	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 13435
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-019-49917-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsurumi, S., Kanazawa, S., & Yamaguchi, M. K.	4. 巻 9
2. 論文標題 Infant brain activity in response to yawning using near-infrared spectroscopy.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 10631
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-019-47129-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yang, J., Okajima, K., Kanazawa, S., & Yamaguchi, M. K.	4. 巻 10
2. 論文標題 Infant can visually differentiate the fresh and degraded foods: evidence from fresh cabbage preference.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 1553
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2019.01553	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsurumi, S., Kanazawa, S., Yamaguchi, M. K., & Kawahara, J.	4. 巻 186
2. 論文標題 Rapid identification of the face in infants.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Experimental Child Psychology.	6. 最初と最後の頁 45-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jecp.2019.05.005	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ichikawa, H., Nakato, E., Igarashi, Y., Okada, M., Kanazawa, S., Yamaguchi, M.K., & Kakigi, R.	4. 巻 186
2. 論文標題 A longitudinal study of infant view-invariant face processing during the first 3-8 months of life.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Neuroimage	6. 最初と最後の頁 817-824
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.neuroimage.2018.11.031.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sakuta Yuiko, Kanazawa So, Yamaguchi Masami K.	4. 巻 13
2. 論文標題 Infants prefer a trustworthy person: An early sign of social cognition in infants	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0203541
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0203541	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ujiie Yuta, Yamashita Wakayo, Fujisaki Waka, Kanazawa So, Yamaguchi Masami K.	4. 巻 8
2. 論文標題 Crossmodal association of auditory and visual material properties in infants	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 9301
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-018-27153-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsurumi Shuma, Kanazawa So, Yamaguchi Masami K.	4. 巻 52
2. 論文標題 The development of object-based attention in infants	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Infant Behavior and Development	6. 最初と最後の頁 14 ~ 21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.infbeh.2018.05.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tokuda Tatsuya et al.	4. 巻 08(2)
2. 論文標題 Methylphenidate-Elicited Distinct Neuropharmacological Activation Patterns Between Medication-Naive Attention Deficit Hyperactivity Disorder Children With and Without Comorbid Autism Spectrum Disorder: A Functional Near-Infrared Spectroscopy Study	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Neuropsychiatry	6. 最初と最後の頁 739-744
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4172/neuropsychiatry.1000418	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Matsushita, S., Sato, K., Murakami, K., Tsurumi, S., Kanazawa, S., & Yamaguchi, M. K.	4. 巻 8(1)
2. 論文標題 Eye movement patterns in infants suggest illusory motion perception induced by stationary gradation.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 3775
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-018-20865-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakato, E., Kanazawa, S., & Yamaguchi, M. K.	4. 巻 50
2. 論文標題 Holistic processing in mother's face perception for infants.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Infant Behavior and Development	6. 最初と最後の頁 257-263
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.infbeh.2018.01.007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kobayashi, M., Macchi Cassia, V., Kanazawa, S., Yamaguchi, M. K., & Kakigi, R	4. 巻 21(1)
2. 論文標題 Perceptual narrowing towards adult faces is a cross-cultural phenomenon in infancy: A behavioral and near-infrared spectroscopy study with Japanese infants	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Developmental Science	6. 最初と最後の頁 e12498
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/desc.12498	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ichikawa, H., Kanazawa, S., & Yamaguchi, M. K.	4. 巻 22
2. 論文標題 Infants recognize the identity in a dynamic facial animation that simultaneously changes its identity and expression.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Visual Cognition	6. 最初と最後の頁 156-165
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/13506285.2017.1399949	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ichikawa, H., Kanazawa, S., & Yamaguchi, M. K.	4. 巻 22
2. 論文標題 Infants recognize the identity in a dynamic facial animation that simultaneously changes its identity and expression.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Visual Cognition	6. 最初と最後の頁 156-165
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/13506285.2017.1399949	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計95件 (うち招待講演 22件 / うち国際学会 26件)

1. 発表者名 梅川璃空・金沢創・山口真美
2. 発表標題 乳児におけるImplied Motionのランダムドット運動への般化の検討 ~OKN反応を指標として~
3. 学会等名 日本基礎心理学会第42回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山口真美
2. 発表標題 赤ちゃんは顔を読む
3. 学会等名 日本基礎心理学会公開シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 梅川璃空・金沢創・山口真美
2. 発表標題 乳児におけるImplied Motionがランダムドット運動へのOKN反応に与える影響
3. 学会等名 日本視覚学会2023年夏季大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山口真美
2. 発表標題 マスクは子どもの発達にどう影響するか / COVID-19パンデミックが子どもの心と体に与える影響
3. 学会等名 第126回日本小児科学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山口真美
2. 発表標題 マスク顔は視覚はく奪か？ー顔認知の環境を考える
3. 学会等名 基礎心理学会第2回フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 濱野揚茂・金沢創・山口真美
2. 発表標題 表出強度を弱めた表情に対乳児の脳活動の検討
3. 学会等名 日本基礎心理学会第41回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山中七菜子・金沢創・山口真美
2. 発表標題 乳児におけるマスク顔の脳内処理
3. 学会等名 日本基礎心理学会第41回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 李雪萍・鶴見周摩・金沢創・山口真美
2. 発表標題 生後半年未満の乳児における注意の瞬き
3. 学会等名 日本基礎心理学会第41回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yamaguchi, M. K.
2. 発表標題 Infants' face perception: fNIRS Studies.
3. 学会等名 fNIRS 2022 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yamanaka, N., Kanazawa, S., & Yamaguchi, M. K.
2. 発表標題 Infants brain activity to cartoon faces investigated by functional near-infrared spectroscopy.
3. 学会等名 fNIRS 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Tsuji, Y., Kanazawa, S., & Yamaguchi, M. K.
2. 発表標題 Does “peekaboo” attract infants?
3. 学会等名 fNIRS 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山中七菜子・金沢創・山口真美
2. 発表標題 赤ちゃんはマスクの下の顔を顔として見ているのか (2)
3. 学会等名 第27回日本顔学会大会 (フォーラム顔学2022)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 都地裕樹・金沢創・山口真美.
2. 発表標題 Social touchとdirect gazeにおける母子間脳活動同期
3. 学会等名 日本認知科学会第39回大会, オンライン
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 都地裕樹・金沢創・山口真美
2. 発表標題 乳児の瞳孔径の同調現象に白人種・他人種の顔が与える影響
3. 学会等名 赤ちゃん学会第22回学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Nakashima, Y., Kanazawa, S., & Yamaguchi, M. K.
2. 発表標題 Metacontrast masking in early infancy.
3. 学会等名 Vision Sciences Society 22th Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Tsurumi, S., Kanazawa, S., Yamaguchi, M. K. & Kawahara, J.
2. 発表標題 Covert attention in 3- to 4- month-old infants.
3. 学会等名 Vision Science Society 22th Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yang, J., Mizokami, Y., Kanazawa, S., Yamaguchi, M. K., & Webster, M. A.
2. 発表標題 The development of blue-yellow asymmetries in infants.
3. 学会等名 Vision Science Society 22th Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鶴見周摩・金沢創・山口真美・河原純一郎
2. 発表標題 covert attentionの発達 - 方位と運動方向の弁別 -
3. 学会等名 日本基礎心理学会第40回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中島悠介・金沢創・山口真美
2. 発表標題 乳児におけるメタコントラストマスクングの検討
3. 学会等名 日本基礎心理学会第40回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 馬書悦・金沢創・山口真美
2. 発表標題 視覚統計学習に基づいた人種効果の発達の变化
3. 学会等名 日本基礎心理学会第40回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山中七菜子・金沢創・山口真美
2. 発表標題 乳児のマスク顔処理：fNIRSを用いた検討
3. 学会等名 日本基礎心理学会第40回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山中七菜子・金沢創・山口真美
2. 発表標題 赤ちゃんはマスクの下の顔を顔として見ているのか
3. 学会等名 第26回日本顔学会大会（フォーラム顔学2021）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山中七菜子・金沢創・山口真美
2. 発表標題 乳児はイラスト表現の顔を知覚できるか？
3. 学会等名 日本赤ちゃん学会第21回学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Nakashima, Y., Kanazawa, S., & Yamaguchi, M. K.
2. 発表標題 Absence of object substitution masking in early infancy.
3. 学会等名 Virtual Vision Sciences Society 21th Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Tsurumi, S., Kanazawa, S., Yamaguchi, M. K., & Kawahara, J.
2. 発表標題 Upper visual field bias for face detection in infants.
3. 学会等名 Virtual Vision Sciences Society 21th Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yang, J., Kaneko, S., Kanazawa, S., Yamaguchi, M.K., & Kuriki, I.
2. 発表標題 The development of hue selectivity in human visual cortex.
3. 学会等名 Virtual Vision Sciences Society 21th Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山口真美
2. 発表標題 赤ちゃんと視覚
3. 学会等名 第15回日本分子イメージング学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中島悠介・金沢創・山口真美
2. 発表標題 運動視における周辺抑制現象の脳内メカニズム
3. 学会等名 日本視覚学会2021年冬季大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 馬書悦・金沢創・山口真美
2. 発表標題 視覚統計学習に基づいた人種効果の検討.
3. 学会等名 日本視覚学会2021年冬季大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山中七菜子・金沢創・山口真美
2. 発表標題 ヒトとキャラクターの顔に対する乳児の脳活動の検討
3. 学会等名 日本視覚学会2021年冬季大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 楊嘉楽・溝上陽子・金沢創・山口真美
2. 発表標題 黄・青知覚の非対称性の発達
3. 学会等名 日本視覚学会2021年冬季大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鶴見周摩・金沢創・山口真美・河原純一郎
2. 発表標題 乳児におけるcovert attentionの発達過程
3. 学会等名 日本基礎心理学会第39回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中島悠介・金沢創・山口真美
2. 発表標題 視覚運動処理における周辺抑制の初期発達過程
3. 学会等名 日本基礎心理学会第39回大会若手セッション
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 都地裕樹・金沢創・山口真美
2. 発表標題 乳児の瞳孔径の同調現象と皮膚電気反応
3. 学会等名 赤ちゃん学会第20回学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山口 真美
2. 発表標題 乳児の社会的認知の多様性とその発達
3. 学会等名 玉川大学脳科学研究所研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 楊嘉傑，山口真美
2. 発表標題 乳幼児の視覚特性と保育環境の関わり（ラウンドテーブル「知覚発達研究と保育実践をむすぶ」）
3. 学会等名 日本赤ちゃん学会第20回学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山口真美
2. 発表標題 乳児の視覚世界
3. 学会等名 第23回視覚科学フォーラム研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tsurumi, S., Kanazawa, S., Yamaguchi, M. K., Kawahara, J.
2. 発表標題 Feature-based attention in 7- to 8- month-old infants.
3. 学会等名 Virtual International Conference on Infant Studies 2020, (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Macchi Cassia, V., Shirai, N., Kobayash, M., Arioli, M., Bulf, H., Yamaguchi, M. K.
2. 発表標題 Spatial biases in infants' learning of serial order: Evidence for the role of cultural experience.
3. 学会等名 Virtual International Conference on Infant Studies 2020 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Lee, K. R., Nakamura, K., Nakashima, Y., Yamaguchi, M. K., Watanabe, K., Webster, M. A.
2. 発表標題 Individual and population differences in face categories.
3. 学会等名 Virtual Vision Sciences Society 20th Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山口真美
2. 発表標題 視力から見る：赤ちゃんの心の発達
3. 学会等名 第14回子どもの発達シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 楊嘉楽・金子沙永・金沢創・山口真美・栗木一郎.
2. 発表標題 発達初期の視覚野における色相選択性.
3. 学会等名 日本視覚学会2020年冬季大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中島悠介・金沢創・山口真美.
2. 発表標題 乳児におけるオブジェクト置き換えマスキングの検討.
3. 学会等名 視覚学会2020年冬季大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鶴見周摩・金沢創・山口真美・河原純一郎. (2019).
2. 発表標題 顔の上視野優位性の発達.
3. 学会等名 日本基礎心理学会第38回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中島悠介・金沢創・山口真美
2. 発表標題 乳児におけるBiological Motion知覚から顔認知への馴化効果の転移.
3. 学会等名 日本基礎心理学会第38回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 楊嘉楽・金沢創・山口真美・栗木一郎
2. 発表標題 視覚野における色相選択性の発達.
3. 学会等名 日本基礎心理学会第38回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鶴見周摩・金沢創・山口真美・河原純一郎
2. 発表標題 高速逐次視覚呈示課題(RSVP)を用いた乳児の顔検出能力の検討
3. 学会等名 日本基礎心理学会第38回大会学生オーラルセッション
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山口真美
2. 発表標題 赤ちゃんの脳科学
3. 学会等名 日本学術会議心理教育部会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山口真美・河野哲也
2. 発表標題 顔の科学：内側から見る顔
3. 学会等名 第24回日本顔学会大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鎌水秀和・鎌水秀和・田中みわ子・床呂郁哉・中村航洋・渡邊克巳・金沢創・山口真美
2. 発表標題 文化的差異と集団魅力判断の関係 タブレットPCを用いた青少年対象とした検討
3. 学会等名 第24回日本顔学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 都地裕樹・金沢創・山口真美.
2. 発表標題 顔認知における社会的認知の発達:瞳孔径計測による検討.
3. 学会等名 第24回日本顔学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山口真美
2. 発表標題 顔認知の発達と障害と
3. 学会等名 日本心理学会第83回大会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山口真美
2. 発表標題 日立製作所シンポジウム 心理学における脳科学-基礎と臨床をつなぐfNIRS研究
3. 学会等名 日本心理学会第83回大会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ujiie, Y., Kanazawa, S., & Yamaguchi, M. K.
2. 発表標題 Infants' perceptual insensitivity to the other-race-face in multisensory speech perception.
3. 学会等名 The 15th Asia-Pacific Conference on Vision, (国際学会)
4. 発表年 2019年

1 . 発表者名 Kobayashi, M., Nagashima, M., Tokuda, T., Ikeda, T., Monden, Y., Kanazawa, S., Yamaguchi, M. K., Sakuta, R., Yamagata, R., & Dan, I.
2 . 発表標題 Identifying cortical area for processing of emotional facial expressions in ADHD children measured by near-infrared spectroscopy.
3 . 学会等名 The 15th Asia-Pacific Conference on Vision (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Nakashima, Y., Kanazawa, S., & Yamaguchi, M. K.
2 . 発表標題 Development of human infants' receptive field mechanisms in visual motion processing.
3 . 学会等名 The 15th Asia-Pacific Conference on Vision (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Tsurumi, S., Kanazawa, S., Yamaguchi, M. K., & Kawahara, J.
2 . 発表標題 Attentional blink in 7- to 8- month-old infants.
3 . 学会等名 The 15th Asia-Pacific Conference on Vision (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Yarimizu, H., Nakamura, K., Watanabe, K., & Yamaguchi, M. K.
2 . 発表標題 Cultural Differences in the Generalization of the Mere Exposure Effect.
3 . 学会等名 The 15th Asia-Pacific Conference on Vision (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1. 発表者名 都地裕樹・金沢創・山口真美
2. 発表標題 乳児の瞳孔径の同期現象
3. 学会等名 赤ちゃん学会第19回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kobayashi, M., Nagashima, M., Tokuda, T., Ikeda, T., Monden, Y., Kanazawa, S., Yamaguchi, M. K., Sakuta, R., Yamagata, R., & Dan, I.
2. 発表標題 The neural basis underlying impaired recognition of angry expression in ADHD children measured by near-infrared spectroscopy.
3. 学会等名 Vision Sciences Society 19th Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nakashima, Y., Kanazawa, S., & Yamaguchi, M. K.
2. 発表標題 Development of human infants' receptive field mechanisms in motion processing.
3. 学会等名 Vision Sciences Society 19th Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tsurumi, S., Kanazawa, S., Yamaguchi, M. K., & Kawahara, J.
2. 発表標題 Attentional blink in preverbal infants.
3. 学会等名 Vision Sciences Society 19th Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yang, J., Natasa, G., Kanazawa, S., Yamaguchi, M. K., & Bremner, A.
2. 発表標題 Tactile influences on visual processing of bodily information in infants.
3. 学会等名 Vision Sciences Society 19th Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中島悠介・金沢創・山口真美
2. 発表標題 オブジェクト置き換えマスキングを用いたフィードバック視覚処理の発達の検討.
3. 学会等名 日本視覚学会2019年冬季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 楊嘉楽・金沢創・山口真美・Andrew Bremner.
2. 発表標題 乳児における視触覚統合による身体表象の活性化
3. 学会等名 日本視覚学会2019年冬季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 氏家悠太・金沢創・山口真美
2. 発表標題 顔と音声の視聴覚統合における他人種効果の検討
3. 学会等名 日本基礎心理学会第37回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鶴見周摩・金沢創・山口真美・河原純一郎.
2. 発表標題 注意の瞬きは1歳未満の乳児でも生じるか?
3. 学会等名 日本基礎心理学会第37回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中島悠介・金沢創・山口真美.
2. 発表標題 ヒト乳児の運動視における受容野構造の発達過程
3. 学会等名 日本基礎心理学会第37回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 楊嘉楽・Natasa Ganea・金沢創・山口真美・Andrew Bremner.
2. 発表標題 (2018). 乳児における素材の視・触覚弁別の発達
3. 学会等名 日本基礎心理学会第37回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 楊嘉楽・金沢創・山口真美・本吉勇.
2. 発表標題 Pre-constancy Vision in Infants.
3. 学会等名 日本基礎心理学会第37回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山口真美
2. 発表標題 赤ちゃんの発達
3. 学会等名 第41回日本美容外科学会総会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山口真美
2. 発表標題 個性と身体表現の創発に関わる神経機構
3. 学会等名 第36回日本小児心身医学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 楊嘉楽・金沢創・山口真美・Andrew Bremner
2. 発表標題 乳児における視触覚統合による視覚処理の促進効果
3. 学会等名 日本視覚学会2018年夏季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中島悠介・山口真美・金沢創.
2. 発表標題 ヒトの乳児の運動視における受容野構造の発達過程.
3. 学会等名 日本視覚学会2018年夏季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山口真美
2. 発表標題 個性と身体表現の創発に関わる神経機構
3. 学会等名 第41回日本神経科学学会大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ujiie, Y., Yamashita, W., Fujisaki, W., Kanazawa, S. & Yamaguchi, M.K.
2. 発表標題 Crossmodal association of auditory and visual material properties in infants.
3. 学会等名 The 19th International Multisensory Research Forum（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nakashima, Y., Kanazawa, S., Yamaguchi, M. K., & Sugita, Y.
2. 発表標題 Size-contrast illusion induced by unconscious context.
3. 学会等名 Vision Sciences Society 18th Annual Meeting（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sato, K., Kanazawa, S., & Yamaguchi M.K.
2. 発表標題 Infants' detection of self-shadow change and object's shape change.
3. 学会等名 Vision Sciences Society 18th Annual Meeting（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tsurumi, S., Kanazawa, S., Yamaguchi, M. K., & Kawahara, J.
2. 発表標題 Infants' ability to detect and learn faces during rapid serial visual presentation.
3. 学会等名 Vision Sciences Society 18th Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山口真美
2. 発表標題 キッズデザインと色彩
3. 学会等名 日本色彩研究所研究会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山口真美
2. 発表標題 赤ちゃんの視覚世界を科学する
3. 学会等名 玉川大学脳科学研究所第13回赤ちゃんフォーラム (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中島悠介・杉田陽一・山口真美・金沢創.
2. 発表標題 運動視における周辺抑制機能の発達.
3. 学会等名 日本視覚学会2018年冬季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鶴見周摩・金沢創・山口真美・河原純一郎
2. 発表標題 乳児における高速逐次視覚呈示(RSVP)中の顔検出能力の検討.
3. 学会等名 日本視覚学会2018年冬季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 氏家悠太・金沢創・山口真美
2. 発表標題 乳児における身近な物質の視聴覚統合.
3. 学会等名 日本視覚学会2018年冬季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐藤夏月・金沢創・山口真美
2. 発表標題 乳児を対象とした表面知覚の恒常性における影知覚の影響.
3. 学会等名 日本視覚学会2018年冬季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鶴見周摩・金沢創・山口真美
2. 発表標題 乳児におけるobject-based attentionの検討.
3. 学会等名 日本基礎心理学会第36回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山口真美
2. 発表標題 Infants' visual brain
3. 学会等名 中国小児科学術大会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山口真美
2. 発表標題 赤ちゃんの視覚世界
3. 学会等名 川崎市麻生区赤ちゃん学講座（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐藤夏月・金沢創・山口真美
2. 発表標題 表面知覚の恒常性における影知覚の影響
3. 学会等名 日本視覚学会2017年夏季大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 氏家悠太・金沢創・山口真美
2. 発表標題 日本語母語乳児における発話者への視覚的注意の発達的变化.
3. 学会等名 日本視覚学会2017年夏季大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小林恵, 金沢創, 山口真美
2. 発表標題 自然なシーンの中の顔検出の発達.
3. 学会等名 日本視覚学会2017年夏季大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山口真美
2. 発表標題 赤ちゃんの視覚と脳
3. 学会等名 第20回日本光機能脳イメージング学会(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 氏家悠太・金沢創・山口真美
2. 発表標題 fNIRSを用いた乳児における音声言語の視聴覚統合の脳内機構.
3. 学会等名 第20回日本光機能脳イメージング学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山口真美
2. 発表標題 世界理解の新しい試みー質感の科学からー
3. 学会等名 認知科学会サマースクール(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山口真美
2. 発表標題 赤ちゃんの視覚と脳
3. 学会等名 東京都盲学校夏季専門研修会（招待講演）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計10件

1. 著者名 山口真美・河野哲也・床呂郁哉	4. 発行年 2022年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 272
3. 書名 コロナ時代の身体コミュニケーション	

1. 著者名 山口真美	4. 発行年 2022年
2. 出版社 河出書房新社	5. 総ページ数 221
3. 書名 見た目が気になる；「からだ」の悩みを解きほぐす26のヒント	

1. 著者名 河野哲也・山口真美・金沢創・渡邊克巳・田中章浩・床呂郁哉・高橋康介(編)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 442
3. 書名 顔身体学ハンドブック	

1. 著者名 新井洋行(作・絵)・山口真美(監修)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 くもん出版	5. 総ページ数 20
3. 書名 あかちゃんごきげん しゃかしゃか	

1. 著者名 新井洋行(作・絵)・山口真美(監修)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 くもん出版	5. 総ページ数 20
3. 書名 あかちゃんごきげん きらきら	

1. 著者名 山口真美	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波ジュニア新書	5. 総ページ数 221
3. 書名 こころと身体の心理学	

1. 著者名 山口真美・金沢創・ミスミヨシコ	4. 発行年 2019年
2. 出版社 角川書店	5. 総ページ数 28
3. 書名 かおかおばあ	

1. 著者名 山口真美・金沢創・河原純一郎	4. 発行年 2019年
2. 出版社 遠見書房	5. 総ページ数 234
3. 書名 公認心理師の基礎と実践 心理学実験	

1. 著者名 山口真美・金沢創	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 224
3. 書名 赤ちゃんの視覚と心の発達 補訂版	

1. 著者名 山口真美	4. 発行年 2018年
2. 出版社 朝日新聞出版	5. 総ページ数 255
3. 書名 損する顔 得する顔	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	パスカリス オリビエ (Pascalis Olivier)		
研究協力者	シャオ ゲイブルル (Xiao Gabriel)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
米国	テキサス大学			
イタリア	ミラノピッコカ大学			
英国	バーミンガム大学			